

---

# 石狩市南地域包括支援センター 令和6年度の取組みと地域課題

## 令和6年度（重点項目）事業 事業紹介①

### 【認知症カフェ「みなカフェ・花川みなみ」】

- 時期：4～2月の11回
- 延199人が利用

【内容】認知症に関するミニ講話、  
ハーモニカサークル演奏会、  
認定こども園児との交流等





## 令和6年度（重点項目）事業 事業紹介②

---

### 【地域包括支援センターの機能拡充】

#### ①センターとしての市民周知継続

- ・石狩圏域のセンター合同広報紙を年間3回、+回覧板として配布している。
- ・担当エリア町内会長への挨拶周り。障害分野との連携を強化するための研修会を開催。

#### ②自立支援に資するケアマネジメントの推進と、適切な会議と研修の実施。

- ・目的に応じた地域ケア会議を行い、支援機関を招集（年間19回実施）。
- ・3包括共同で障害分野との連携について会議での検討を重ね、研修会の開催に結びつけることができた。

## 令和6年度 総合相談からみえた地域課題

---

- 同居家族全員が精神疾患や障害、認知症を抱え、さらに経済的に困窮している、身内のサポートが望めない等、複合的な課題を抱えているケースが増加している。
- ハラスメントの要素を多分に含んでいる事例について、センターとしての対応に苦慮しており、関係機関との連携を強化していく必要性がある。
- 高齢者と同居している、数十年にかけて引きこもりの家族への支援として、チームアプローチが必要になっているケースが増えてきている。

---

# 石狩市花川中央地域包括支援センター 令和6年度の取組みと地域課題

## 令和6年度（重点項目）事業 事業紹介①

### 【認知症カフェ「みなカフェはなちゅう」】

- 毎月第4木曜日 13:30～15:30
- 延212人が利用
- 認知症等に関連するミニ講話を毎月実施
- 認知症マフの作成グループ
- 毎月の振り返りミーティングの実施



# 2025年ふれあい広場いしかりに 認知症マップを展示しました！

7月19日(土)にりんくるにて開催されたふれあい広場に、編み物ボランティアのみなさんが作成した認知症マップを展示させていただきました！  
お子さんからお年寄りまで幅広い年代の方が、足を止めて認知症マップを手にとってくださり、関心を持ってくださいました。今後も認知症マップを通じて認知症の方への支援者が増えることを願っています。



## 令和6年度（重点項目）事業 事業紹介②

---

### 【地域包括支援センターの機能の充実】

#### ◎法人出前講座への同行と花川中央団地との定期講座開催

- ・地域の各団体へ赴き機能周知を実施⇒年間17回、延べ272人参加（重複あり）
- ・花川中央団地とURコミュニティと提携しコラボ講座を開催⇒年3回（7年度も継続）

#### ◎担当地域の町内会長を訪問

- ・16町内会の会長を訪問し町内会の現状を把握

⇒回覧板にてセンター機能や高齢者の支援施策等に関連するリーフレットを  
回覧してもらう（16町内会485班5,557世帯）

## 令和6年度 総合相談からみえた地域課題

---

- ・総合相談件数は開設以降、毎年度増加。相談内容も生活課題が単一ではなく複雑化しており、支援や調整に難渋することも増えている。
- ・生活課題や問題が表面化し、生活に支障を来してから支援機関とつながる方が多い。
- ・認知機能の低下などを要因に医療機関に繋がっていない方、サービスや制度の利用について消極的、拒否的である方の相談が増えている。

---

# 石狩市北地域包括支援センター 令和6年度の取組みと地域課題

令和6年度（重点項目）事業 地域課題に対する取り組み  
「緑ヶ原地区における移動支援」

---

**【地域課題】**

右岸地区では交通資源が乏しく、受診、買い物等外出に苦慮している

①個の相談から地域全体の課題へ

- ・北包括への総合相談をもとに町内会役員へ実態把握

②地域課題検討型地域ケア会議の開催

- ・地域課題の共有と地域住民主体の取り組みを提案
- ・生活支援コーディネーターとの協働

③町内会長を中心とした取り組み

- ・地域住民へのニーズ調査
- ・地元の社会福祉法人との事業立ち上げ

令和6年度（重点項目）事業 地域課題に対する取り組み  
「新たな通いの場の立ち上げ」

---

**【地域課題】**

住民の高齢化から町内会活動も乏しく、社会資源も少ない地域において、住民が集える場がない

①みなカフェよこまち立ち上げプロジェクトチーム

- ・認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーター、Sun・Ju・想、北包括

②みなカフェよこまちの周知

- ・町内会長、地域住民、民生委員、地元の介護保険サービス事業所等

③ランドオープン

- ・花川南、中央、北、よこまち、八幡、厚田、浜益のみなカフェミーティング

④新たな展開へ

- ・地元サービス事業所を巻き込んだ運営スタイルの模索

# 認知症カフェ 「みなカフェよこまち」



時期：月1回定期開催

参加：10名程度

サンサンイシカラの利用者による飲み物の配膳

内容：

- ・リハビリスタッフによる  
ミニ講話
- ・楽しいおしゃべり



カフェの雰囲気はそれぞれ。  
にぎやかだったり、お話に熱中したり

写真：みなカフェよこまち

## 令和6年度 総合相談からみえた地域課題

---

- アルコール依存症による認知機能低下、身体衰弱、セルフネグレクト等、専門医療機関の治療を要する方を治療に結びつけることができない。専門医療機関へ相談できる関係づくり、生命を守る安否確認、救急体制構築が必要。
- 社会から孤立した障がい者が高齢化に伴い介護の問題を抱えるも、介護者も高齢でサポートを望めない。潜在的に地域とのかかわりを持たない障がい者やそのご家族に対し、早期に支援者が関われる体制が必要。
- 身寄りがない方が入院、入所した際に入院費の支払いや治療に対する意思決定等、現在の仕組みでも対応に苦慮する課題が発生している。認知機能の低下や経済困窮等、複合的な課題にも対応できる切れ目のない支援体制が必要。

---

# 石狩市厚田地域包括支援センター 令和 6 年度の取組みと地域課題

## 【生きがいづくりと介護予防の推進】

### ①介護予防教室の開催

#### 【脳の健康教室】

・日程：令和6年6月6日～11月21日

週1回、24日間実施

・参加者：実10人、延218人

・評価：MMSE(認知機能評価平均値)～教室開始時25.3 教室終了時26.8



## 令和6年度（重点項目）事業 事業紹介②

### 【地域包括支援センターの機能拡充】

### 【見守りマップの更新】

- ・事業内容：民生委員児童委員と一緒に支援が必要な方や災害時に要援護者となる可能性がある方を把握し、地図にマッピングする
- ・マッピング対象：独居や高齢夫婦世帯、介護保険や配食、除雪サービス利用者、在宅酸素療法や透析通院中の方など
- ・令和6年度実績：3件～吹雪による交通障害や停電時など、安否確認が必要な方に対し、地区担当民生委員児童委員と協力し、状況を把握した



## 令和6年度 総合相談からみえた地域課題

---

- 高齢の両親が不在となった後に、障がいがある残された家族に対する支援の依頼があった。特に家族や近隣住民との関係が希薄でサポートしてくれる人がいない方は問題が長期化しやすく、多くの関係機関や地域住民、医療機関の協力や理解が必要となった。
- 末期がんなどの治療困難な方が退院し、自宅に帰ってくるが増えている。医療の確保や急変時の対応、訪問介護などのサービスが十分に利用できないなど、課題がある。
- 近隣に歯医者がないことで、歯の治療に行きにくいという相談があった。

---

# 石狩市浜益地域包括支援センター 令和6年度の取組みと地域課題

# 令和6年度（重点項目）事業 事業紹介①

## 【認知症カフェ「みなカフェ・はまます」】

- 実施回数: 4回(6~9月)
- 利用者数: 実38人/延52人
- ミニ講話内容
  - 6月: チラシで紙箱づくり
  - 7月: モルックに挑戦
  - 8月: 切り紙で脳活
  - 9月: 回想法を体験

最終回は、「サンサンイシカラ」の利用者様もご来店、地域の方と一緒に楽しみました。ピアノ&ウッドベースの演奏もありました！

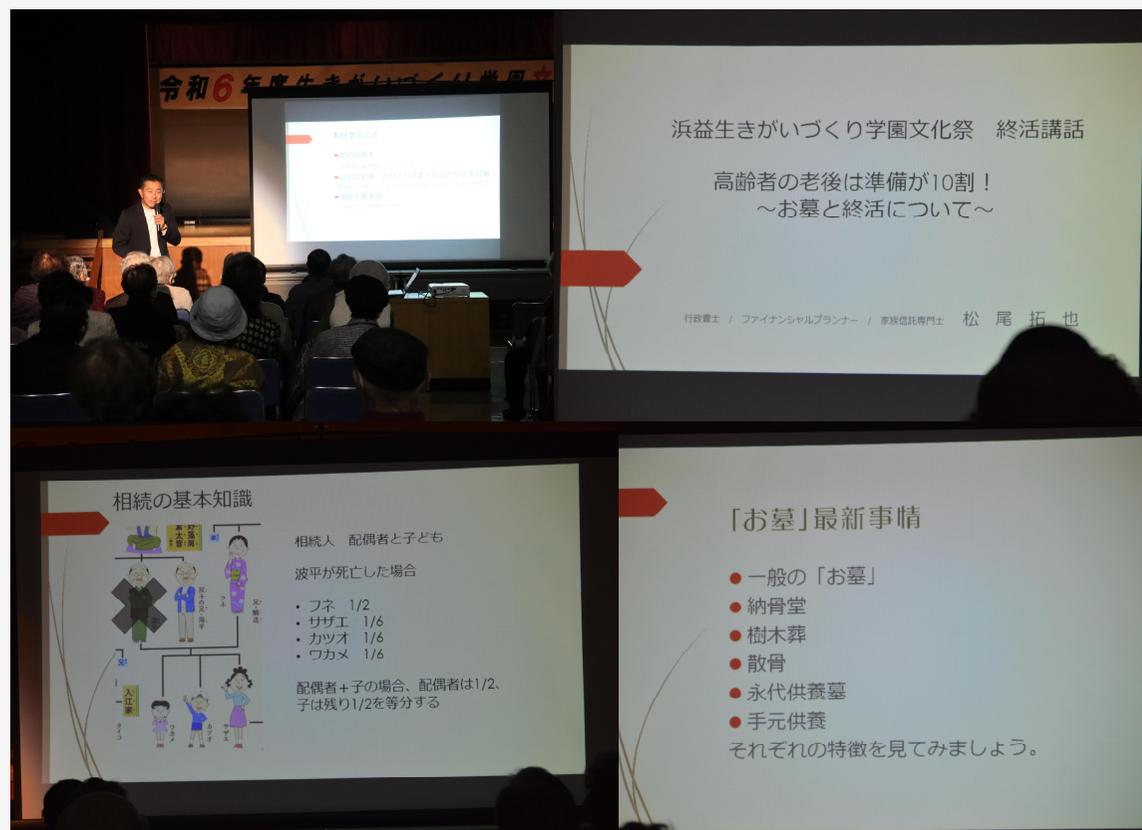


# 令和6年度（重点項目）事業 事業紹介②

## 【終活ミニ講話】

- 実施日: 11/15  
(生きがづくり学園文化祭)
- 参加者数: 62名
- 講話内容  
行政書士・ファイナンシャルプランナーの松尾拓也さんを講師に招き、相続の基本知識、遺言・終活の準備・お墓の知識についての講話をして頂きました。

子供がいない方、親族が浜益になくて、墓終いを考えている人など、興味深く講話を聞かれていました。



## 令和6年度 総合相談からみえた地域課題

---

- はじめて検索機器貸与サービス(「みつけて君」)を活用し、認知症の方への支援拡大につながった。老々介護の状況や、家族が遠方で日常的なサポートが得られにくいというケースもあり、インフォーマルな資源も活用し柔軟に支援の方法を考えていく必要性がある。また、認知症の理解や支援については、地域住民に対し引き続き普及啓発を行い早期発見・対応に努める必要がある。
- 権利擁護や成年後見に関する相談が例年より多かった。8050問題で、複数の職員で対応にあたることもあった。相談の背景に家族支援が必要だったり、複合的な課題を抱えているケースもあるため、関係者間で連携しチームとして関わる重要性を感じた。また複雑化する相談への対応にあたるため、支援者のスキルアップも必要である。
- 人口減少が進む中、深刻な担い手不足が継続。また、住居の問題は、他業種でも課題となる。必要な在宅サービスを維持していくためには、事業所の自助努力だけでは困難な部分もあり、支所や高齢者支援課など関係部署と情報や意見交換を行い地域全体で対応策を考え取り組む必要がある。